

多職種連携医療専門職養成プログラム（CoMSEP）の目的は、①臨床検査技師・理学療法士・診療放射線技師の連携を深めることと、②臨地実習等を改善することの2つである。②では、臨地実習を担当する臨床検査技師の皆さんと臨地実習を行う学生のレベルアップを図るために、それぞれ履修証明プログラムでのスクーリングと臨地実習前 OSCE を進めていくことになっている。臨地実習等を改善することは、単に臨床検査技師教育を充実させるだけではなく、実習先の病院・検査センターがより良くなるきっかけを与えると考えている。

医療科学類の学生の皆さんは、臨地実習前 OSCE についての情報が少ないため、少しは気になっているかもしれない。そもそも臨地実習前 OSCE は、医師・歯科医師・薬剤師の教育課程に組み込まれている客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE）を臨床検査技師教育に取り入れていこうというものである。医師・歯科医師・薬剤師の教育課程においては、OSCE にパスしないと病院での実習を行うことができないことになっており、病院で学ぶために当然体得しているべき技能が評価される。臨床検査技師教育においても OSCE の重要性は変わらないため、医療科学類は CoMSEP をきっかけとして、すでに実施している学校とともに臨地実習前 OSCE を普及させようとしている。

臨地実習は他の学群の学生が行うインターンシップに相当するものであり、大学では学ぶことができない、現場での実践を通して知ることができる知識・技術を習得する機会になる。そのため大

学の授業の延長として臨むことは好ましくなく、臨地実習中は緊張感を持つ、挨拶を心掛ける、メモ帳を持ち歩いて指導を受けることを意識してほしい。そして皆さんは大学病院だけでなく、地域の中核病院、業界トップクラスの検査センターで臨地実習を行う機会があるので、それぞれの検査室で日常業務がどのように進められているかを自分が将来働くことを意識しながら見てほしい。皆さんの第三者的な視点と専門知識に関する積極的な質問は、実習先の職場改善や臨床検査技師の皆さんのさらなるレベルアップにつながると思われる。一方で、少子化や都市部への人口集中により実習先も優秀な学生を採用しなければ、将来、時代についていけなくなる可能性があり、皆さんの行動を注視しているかもしれないので臨地実習には十分な準備を行った上で臨むべきである。

こうした臨地実習に向けて行われるのが臨地実習前 OSCE であり、医療科学類では「Objective Structured Laboratory Examination：OSLE」と呼んでいる。昨年初めて実施された OSLE の後には医療科学類 FD 集会が開催され、先生方は来年度に向けて準備を始められている。皆さんも、これからの講義・実習に真剣に取り組むとともに、これまでの学習内容を復習しておいてください。OSLE にパスした皆さんはきっと、実習先での経験がより鮮明に、より確実に身につけて充実した臨地実習になるでしょう。

【OSLE 関連資料】

1. 平成 26 年度 OSLE 報告書「医療科学における客観的実技能力評価について」
2. YouTube 動画「臨地実習前 OSCE」https://www.youtube.com/watch?v=k5_pm8hIVBo

医療科学類 FD 集会の様子



筑波医療科学 第11巻 第1号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2015年3月30日